二〇二一年二月一三日

園長の太鼓一打に豆を撒く　かかし
海峡に若布刈りゐる親子船　素　秀
干されゐし漁網の匂ふ春の浜　こすもす
摘みし手に香の移りたる蕗の薹　わかば
鷺と鵜の尻向け合うて砂州長閑　うつぎ
がに股で小躍りしたる追儺鬼　なつき
春潮の満ちて廃船洗ひけり　素　秀
提琴の音伸びやかや春立ちぬ　む　べ
風光る仏舎利塔の白燦と　はく子
雪つぶて爺の背中に容赦なく　なつき
かいつぶり潜りしままにゐずなんぬ　はく子
湖の綺羅敷き延べて風光る　うつぎ
寒夕焼瀬戸いつときの熾火かな　凡　士

礎石のみ残る廃寺や木々芽吹く　せいじ
暖かやパン種のよく発酵す　む　べ
巣立ちゆく部屋に一輪水仙花　よう子
娘木偶角を隠して阿波の春　素　秀
焼き立てパン匂ふ店先春隣　よし子

毎週句会秀句・みのる選・二〇二一年二月一四日